

## 7. 試験研究事項

### 柵付き折畳みベッド部分の軽量化

研究員 菊池 元

#### 1. 目的

生活水準の高度化にともない、生活用品は多様化されつつあるとき、整理、収納についての、解決点が、問題化される。生活様式に合わせて、自由に住空間を構成する折畳み式ベッドの、軽量化の試作研究を行なって、新製品の開発をはかった。

#### 2. 概要

折畳み式機構においては、緊結部分は充分なる強度と、機構の単純化、開閉の容易さが要求されるので、練芯材加工において、軽い材料を使用し、出来るだけ材料の節約、軽量化を考慮して、ベッド部分は、片面フラッシュ加工を施し、使用材料はすべて、3%合板を使用した。床面部分のみ強度面から

5%合板を使用して切り抜きによる、空気穴を設けることにより、クッション内部の、湿気の除去、折畳み開閉時の空気圧の除去、軽量化することを考慮した。

#### 3. 成果

この研究の目的は、将来性ある、コンパクト化した、ベッドの規格原型として研究したものである。生活形態の多様化、合理化から今後コンパクト化された家具の市場性は、大いに期待出来ると思う。この試作により、縦型、横型形式、スライド形式（折畳式併用）等の進展が考えられるので、機能面（防湿、軽量、機構）、デザイン面（形態、色彩）の改善により、斬新な市場性ある製品が開発出来ると思う。

### 総合家具のデザイン改善研究（継続）

研究員 鮫島 正登美

#### 1. 目的

一般家具業者のためのインテリアデザインの改善、及び未利用県産材の、高度利用開発設計研究を行なう。

- 1・1 屋久杉製品加工業者のための設計
- 1・2 箱物製品加工業者のための設計
- 1・3 脚物製品加工業者のための設計
- 1・4 設計依頼業者のための物
- 1・5 県産未利用材の高度な家具用材としての利用設計研究

#### 2. 概要

上記の目的にそい設計を行なったが（約80点）いづれも県下の一般家具加工業者が容易に製作出来得るよう、業者の加工能力を生かして、現在加工している製品の品質向上、高級化を図るもので、機能、用途、形態、構造等<sup>等</sup>はもちろん、それぞれの業者の独創性あるものとする。

県産未利用材は材料の特性にあった物を、現在の生活形態等をも考慮し、また加工工作

の単純化した物で購読性のあるのもをと思い、  
本稿は先づ材料の特性を生かした、応接セッ  
トを設計した。

### 3. 成 果

各々その目的に合った物の設計を行なった  
が、前記、1・1の業者の場合、家具展出品  
または県外移出用の物等好評は得ているが、  
補強用金具、飾金具の利用等で今一步の問題  
がある。1・2の場合も同様の事が言える。

1・3の場合もデザインそのものより、製品  
そのもの、材料のつかい分け、加工上でのミス  
等の問題があるように思われる。1・4の  
場合として問題はないが、1・5の家具用と  
しての未利用材の場合、前記のことをわきま  
え設計製作するなら、家具用材として高価な  
外材になら劣る物ではないと思う。今回設  
議した前記応接セットも、塗装、張り布地等  
によっては、高級品として十分扱い得る。

(別図省略)

## デザイン研究

### 木材の装飾性について (1)

— カップボードの設計 —

研究員 楠 畑 裕 也

#### 1. 目 的

木材は合成樹脂材や軽金属材などに比較し  
て、不均質で不安定な材料性のために、消極  
的な工業用材といわれている。けれども木材  
はその加工性のよさと共に、材質の視覚的な  
あたたかさ、やわらかさ、ほどよい重量感や  
木目もようのかぎりない変化から生じる独特  
の味わいをもっている。木材特有のこのよう  
な性格を、素材の含む基本的な装飾性として  
解し、このことを追求することによって本当  
に木を生かし木材ならではの生きた生活用  
具を開発できるであろう。そのために木材  
を次の三つの視点即ち (1)装飾性と機能性  
(2)加飾と形態 (3)純粹装飾というかたとら  
えて検討して形にむすびつけ、製品の設計と  
試作をすることがこの研究の主眼である。

#### 2. 概 要

目的にそって今年度はカップボードをとり  
あげ、取手の機能と装飾効果、棚の稜縁面の  
加飾に重点をおいて設計した。

1. 品 名 ユニット式カップボード
2. 試作者 株式会社山形屋工作所
3. 材 料 しおじ材

#### 3. 考察と成果

木材の材質のすぐれた点をひきだすことを  
デザインのポイントとした。機械加工による  
幾何学的な面と線から生じる形は、木材の素  
材感とあいまって、作品をいくぶん立体的に  
し直線と球の構成をやわらかくみせた。それ  
が造形性からくるのか素材から受けるのかわ  
からない。来年度は機械加工だけでなく手加  
工の面からも木材の装飾効果を求めてみたい